

# 貴重な文化財を後世に伝えるために・・・

## 滋賀県指定有形文化財

## 馬見岡綿向神社本殿の修理が行われました



▲滋賀県指定有形文化財の馬見岡綿向神社本殿

### ●馬見岡綿向神社について

馬見岡綿向神社は、綿向山頂に祠を設けて天穂日命を祀ったことに始まり、平安時代初期、現在の地に里宮として社殿を造営したと伝えられています。

中世から近世初頭にかけては、この地を治めた蒲生氏代々の庇護を受け、江戸時代には日野商人たちの崇敬を集めました。

現在の本殿は、宝永3（1706）年に寄進を募り、同4（1707）年に完成したものです。その後は、何度か屋根の葺き替えを主とした修理が行われているほか、内陣の改造（大正6年）や、桧皮葺から銅板葺への屋根の改修（昭和58年）などが行われています。



▲修理された柱

### ●本殿の修理について

前述のとおり、宝永4年の完成以降、継続的に修理を行われていますが、経年による腐朽や損傷、さらにはシロアリの被害を受けていました。特に床や柱の損傷は、本殿が傾斜するなどの事態を引き起こしていました。

このことから、滋賀県のマザーレイク滋賀応援寄付金充当事業（近江の名宝保存継承事業）として補助を受け馬見岡綿向神社の修理が行われました。修理は平成24年7



▲修理報告会（第2回『お宮の杜』講座）の様子

月5日～9月20日にかけて行われ、10月21日には修理報告会が行われました。今回の修理では腐朽あるいは破損した木部（柱など）の補修や取り替えを行い、床下にシロアリを防ぐ処理も行いました。また、経年劣化した扉の受け軸や金具の修繕なども行いました。

今回のような普段目にすることができない床下部分の修理は、成果が分かりにくいものですが、貴重な文化財を後世に伝えるために大切な事業となっています。



▲修理報告会（現地見学）の様子

### ◆問い合わせ先

教育委員会事務局 生涯学習課 ☎ 52 6566 有線 5370